

第3回 「すべては人間の行動に帰結する」

IT生

朝、地下鉄の御堂筋線にのるために、阪急梅田駅側からの改札を通り、階下のプラットフォームに向くと、異様な光景が現れる。改札に一番近い車両付近に乗客が列なしている。そこから先の車両はほぼ空席なのである。駅員も何もいわない。こんな状況で、仮に火事でもあって、煙が充満したらどうなるのか（実際あった）。地震があったらどうなるのか。なんてことは全く念頭になさそうである。

その乗客の様子をみていると、これまでと同じような日常生活があたり前のように永遠に保障されているかのようである。今の世の中、人々の意識はすべからくそうである。

私が住んでいるマンションでもそうだ。割と管理組合が熱心で、マンション運営に関して、年に何回か議論をする場が設けられる。最近の議題は、車離れにより駐車場料金の収入が目減りしていることへの対策だった。そのことについて現理事会は、外部貸し出しを強く押し出してきた。駐車場が不足している隣のマンションから求められているという。お金、お金の一点張りで、外部の者がマンションに一日中出入りすることにもなう事故や事件へ心配は全く意に介さない。賛成をしている人たちは「安全、安心なんて考えだしたらきりが無い」というのである。



上町、生駒といった巨大断層のうえにある大阪平野。多くの人は知らずに日常生活を送っている。

そういえば、大阪府庁の咲洲の超高層ビルへの移転話しも同じ構図だった。軟弱地盤に立地しており、孤立しやすいため、防災上、役所には向かないと当初からいられていた。しかし、「経済効果が期待できる」と強行し、結果として、1000年に一度といわれた東日本大震災で大きな被害を受けた。震源から800キロも離れているに関わらずにである。

潜在的に、技術論だけで回避できない「危険性」が潜んでいる事には、手を出すべきではないのである。

ここで、寺田寅彦師いわく、「生きているうちに一度でもお金を儲けて、三日でも栄華の夢を見さえすれば津波に攫（さら）われても遺憾はないという、そういう人生観を抱いた人たちがそういう市街を造って集落するのかもしれない」。こういう現代人の行動パターンを変えるためには、どうすればよいか。果たして、師いわく、「このような人間の動きを人間の力でとめたり、外らしたりするのは天体の運行を勝手にしようとするよりもいっそう難儀なことである」。潜在している「危険性」とはまさに「人間の行動」そのものだ。

そのことを平生認識しているか、していないかで、天と地ほどの差があることを、われわれは、まず知らねばならない。

(平成 27 年 6 月)